

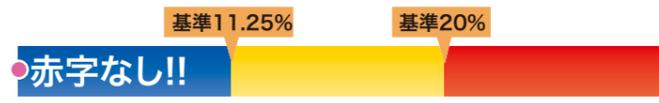
平成29年度決算に基づき算定した 財政健全化判断比率

※佐世保市はすべての指標でクリアしています。



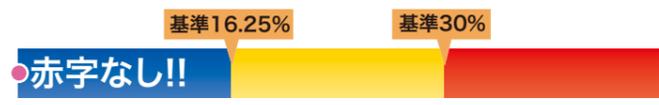
実質赤字比率

一般会計などの実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです。



連結実質赤字比率

全会計の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです。



実質公債費比率

一般会計などの実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです。



将来負担比率

一般会計などが抱える実質的な負債の残額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すものです。



資金不足比率

各公営企業の資金不足額が、事業の規模に対してどれくらいの割合になるかを示すものです。



■健全 ■財政健全化団体 ■財政再生団体

これからも健全な財政運営を行います。

【財政運営の方針】

「質の高い」財政運営 「自立した」財政運営 「信頼される」財政運営

財政規律(収支の均衡、将来負担の抑制、適正な受益者負担など)を守りながら、計画的、効率的な財政運営に努め、地域の活性化を図りつつ、財政の健全性を維持します。

【今後の財政運営】

少子高齢・人口減少社会の進展や行政需要の多様化などに伴い、将来の財政見通しは非常に厳しい状況にあり、行財政改革推進計画による改革改善を行わなければ、安定した財政運営が確保できない状況にあります。今後、市民の皆様のご理解をいただきながら、この収支不足の解消のためさらなる改革を行い、財政の健全化を図るとともに、持続可能な財政運営に努めていきます。



平成29年度決算に基づく現状値

	現状値	目標値
実質的な財源調整2基金※1の残高の標準財政規模※2に対する割合	13.6%	10%以上
実質公債費比率※3	5.2%	12%以下
経常収支比率※4	91.5%	90%以下

- ※1：正味の財源調整にあてることができる財政調整基金と減債基金の残高のことで、佐世保市の貯金を指すものです。
- ※2：地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる経常的一般財源の規模を示すもの。なお、一般財源とは使いみちを特定されず、どのような経費にも使用することができる財源です。市税、地方譲与税、地方交付税などがこれにあたります。
- ※3：地方公共団体の公債費による財政負担の度合いを判断する指標。
- ※4：財政構造の弾力性(ゆとり)を判断するための指標。地方税・普通交付税などの、使いみちを制限されない毎年収入される性質の収入(経常的な収入)に対する、人件費・公債費・扶助費など毎年支出される性質の支出(経常的な支出)の割合です。平成29年度においては、収入の減少により目標値を下回りました。

佐世保市の財政についてもっと知りたい方は、市のホームページにアクセスしてください。また市役所6階 行政資料閲覧コーナーでも各種資料をご覧いただけます。

お問い合わせ先

佐世保市 財務部 財政課 〒857-8585 佐世保市八幡町1番10号
☎0956-24-1111(内線2631~35)
ホームページアドレス <http://www.city.sasebo.lg.jp/>

この付録は、佐世保市の平成29年度(平成29年4月1日~平成30年3月31日)の台所(財政)事情をわかりやすくお知らせするために制作した情報誌です。

平成29年度決算

(平成29年4月1日~平成30年3月31日)

25万人の台所事情

させぼさんちの家計簿



佐世保市財務部

佐世保市の平成29年度一般会計決算を、1年間の支出が500万円の「させぼさんちの家計」に例えてご紹介します。

1ヶ月あたり させぼさんちの家計簿

平成29年4月～平成30年3月の月平均家計

給料(諸手当)が毎年変わるから、なかなか安定しないなあ。

自由に使えるお金(一般財源)と使いみちが決まっているお金(特定財源)と、半々くらい。自由に使えるお金が増えると、家計のやりくりはしやすいけどなあ。



家の改修などの臨時的な出費や医療費などの一部は、祖父母(国県)からの援助があるんだ。道路や施設の建設などでは、ローン(借入金)もしているんだね。これは、何十年も使う施設の建設費用を後の世代の人たちにも負担してもらおうという意味もあるんだよ。



貯金は将来のために、できるだけ維持しないといけないね。



- 市税**
市民の皆さんから取っていた税金。市民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税など
- 地方交付税**
国税のうち市の取り分として交付されたお金
- 譲与税・交付金**
国税・県税のうち市の取り分として譲与・交付されたお金
- 諸収入**
延滞金、預金利子、貸付金元利収入、雑入など
- その他収入**
使用料・手数料、分担金・負担金、寄附金、財産収入
- 国庫支出金、県支出金**
国と市が共同で行う事業のために国が市に支出したお金、県が市に対して支出したお金
- 市債**
市が国や銀行から借りたお金
- 繰入金**
市の基金から引き出したお金
- 繰越金**
前年度に残ったお金

収入		支出	
現金収入	369,200円	生活費計	279,200円
① 給料(基本給)	104,600円	① 食費	58,700円
② 給料(諸手当)	116,600円	② 医療費	111,200円
③ パート収入	43,300円	③ 光熱水費など雑費	72,300円
④ 祖父母からの仕送り	104,700円	④ 車などの修理代	2,800円
⑤ ローン(借入金)	29,500円	⑤ 教育費	34,200円
⑥ 貯金の取り崩し	17,800円	⑥ 子どもへの仕送り	28,800円
⑦ 繰越金	13,400円	⑦ ローン返済	39,000円
		⑧ 家や庭の建築・改修	36,200円
		⑨ 貸付など	15,800円
		⑩ 貯金	17,700円
収入合計	429,900円	支出合計	416,700円
		余り(収入-支出)	13,200円

- 人件費**
市職員の給料や議員報酬など
- 扶助費**
生活保護、障がい者支援、医療費助成、保育など福祉に使ったお金
- 物件費**
光熱水費、消耗品費、業務委託料など
- 補助費等**
報償費、負担金、補助金など
- 維持補修費**
道路、公共施設を維持するために必要なお金
- 教育費**には人件費や物件費、普通建設事業費などが含まれています。
- 繰出金**
下水道事業や介護保険などの他の会計への繰出金
- 公債費**
市債の元金・利子や一時借入金の利子
- 普通建設費**
道路・庁舎など、公共・公用施設の新築・改修に使ったお金
- 災害復旧費**
大雨、暴風などの災害により被災した施設を復旧するためのお金
- 貸付金**
福祉増進や地域振興のために貸したお金
- 積立金**
将来の財源変動に備えて積み立てたお金

どうしても必要な食費、医療費、ローンの返済(義務的経費)の占める割合が、全体の半分もあるのね。特に、医療費が家計を圧迫しているようね。

これからも医療費は増えそうだから、食費や光熱水費など、できることから切りつめないといけないわね。

今後は家の改修も必要になってくるから、きちんとした計画を立てないといけないなあ。

ローンの返済がある中で、私への仕送りもあるから大変なんだ。

ローン残高が少し減ったよ!

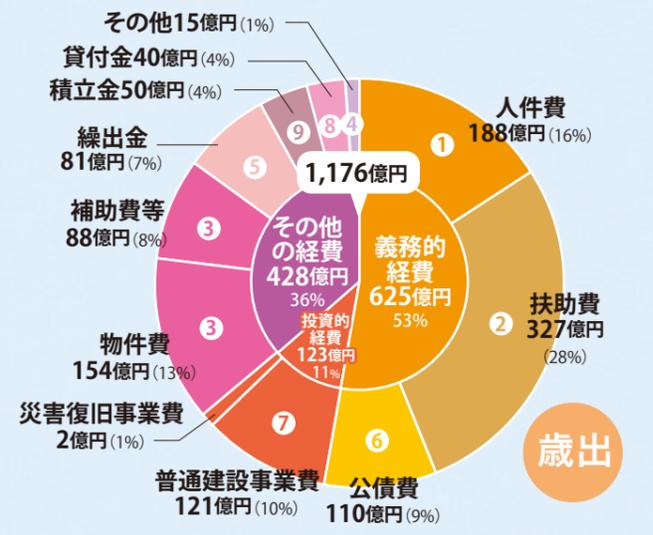
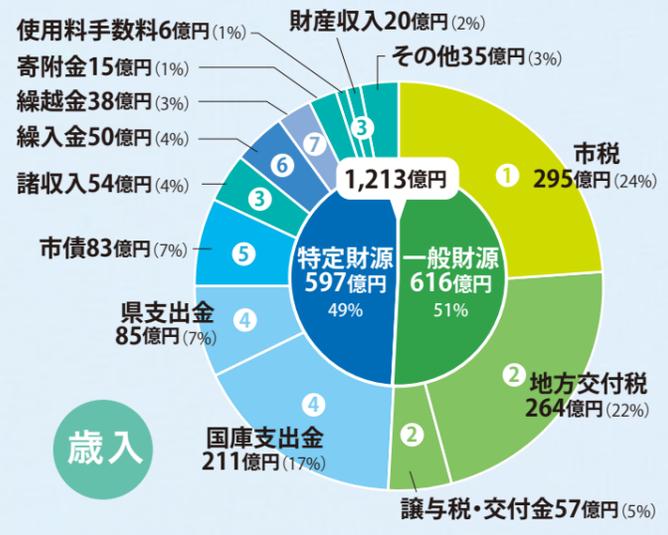
貯金残高 988,000円(+2,000円)

ローン残高 4,135,000円(-59,000円)

※ローン残高には、将来、地方交付税による措置が見込まれるものを含まず。()内の数字は28年度からの増減です。

佐世保市の歳入決算1,213億円を、させぼさんちの1年間の支出500万円に例えています。1年間の支出500万円は、1ヶ月あたり41万6,700円の支出になります。

平成29年度 佐世保市一般会計決算



29年度決算のポイント

●新西部クリーンセンター施設整備事業や大型客船対応基盤整備事業、相浦地区複合施設整備事業などの増があったものの、年金生活者等支援臨時福祉給付金給付事業の終了や佐世保市総合医療センター運営事業費の減、公債費の減などにより、決算規模は歳入で約0.5%、歳出で約0.4%減少しました。

29年度のトピック

- 8つのリーディングプロジェクト始動
- 黒島小中学校校舎建設

29年度を振り返って...

市債残高は、相浦地区複合施設整備事業や新西部クリーンセンター施設整備事業などの大型事業により借入額が増加したにもかかわらず、将来を見据えた借入れの抑制も含めプライマリーバランス(※1)の黒字を達成した結果、減少しています。また、実質的な財源調整のための2つの基金(※2)の残高が、前年度末から0.2億円増となっており、厳しい財政状況にある中で、将来を見据えた健全な財政運営ができたと考えています。

(※1) 市債の元金償還額から発行額を差引いた金額のバランスを見たものです。これが黒字ということは、借金の額が減っていくことを意味しています。
(※2) 正味の財源調整に充てることができる財政調整基金と減債基金の残高のことで、佐世保市の貯金を指します。